

6011-1456

令和6年9月24日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和6年度病害虫発生予察特殊報第1号について

令和6年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

令和6年度病害虫発生予察特殊報第1号

1 病害虫名：ナンヨウキクイムシ *Euwallacea fornicatus* (Eichhoff)

2 作物名：マンゴー

3 発生確認の経過

令和6年(2024年)5月中旬、県央部のハウス栽培マンゴー(品種アーウィン、樹齢30年生)において、枝が衰弱枯死する被害が発生した。枯死した枝の下部では樹皮に直径1mm程度の食入孔(図3)と木くず(図4)が多数確認された。枝の内部には孔道(図5)と褐色の甲虫が確認された。農林水産省門司植物防疫所に本虫の同定を依頼した結果、本県では未確認のナンヨウキクイムシであることが判明した。

4 国内の発生状況

国内では、昭和48年(1973年)に東京都小笠原諸島父島、平成12年(2000年)に鹿児島県徳之島、平成19年(2007年)に鹿児島県種子島、沖縄県豊見城市で本種による被害が報告されている。

5 本種の特徴

(1) 寄主植物

マンゴー、チャ、アボカド、レイシ他、極めて広食性である。

※通常は倒木・衰弱木などで繁殖し、健全木には穿孔しないと考えられている。

(2) 分布

日本(南西諸島、種子島、小笠原)、中国、台湾、インド、南アフリカ、アメリカ、ブラジル、オーストラリア他。

(3) 生態

雌成虫の体長は2.5mm内外。体色は光沢のある黒色で、触角、脚は茶褐色(図1、2)。表面はまだらな黄白色の毛に覆われる。前胸背の前縁は半円状で前方3分の2は瓦状突起を備える。

6 防除対策

現在、マンゴーで本種の防除に使用可能な登録薬剤はないため、以下の防除を実施する。

- (1) 木くずや食入孔を発見した場合は、速やかに侵入部位が見られる枝の基部で切除し、施設外に持ち出し適切に処分する。
- (2) 切除した切り口には、保護剤を塗布し枯れ込みを防ぐ。
- (3) 樹勢が衰えると本種の被害を受けやすいため、適切な栽培管理で樹勢の維持に努める。
また、枯れ枝や弱った枝も加害枝と同様に、放置せず速やかに切除し、適切に処分する。



図1 成虫上面 (体長 2.5 mm)



図2 成虫側面



図3 多数の食入孔



図4 木くずの発生状況



図5 枝内部の同心円状の孔道

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(病虫害防除・肥料検査センター) 松浦・田爪

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryō@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ :

https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html

